

日本山岳写真協会 選抜展 「それぞれの山」

日 時／平成15年12月10日(水)～19日(金)

会 場／コニカミノルタプラザギャラリーC

1	凜・宝剣岳冬の風貌	①宝剣岳 ②宝剣岳 ③宝剣岳	伊原明弘
夏から秋の、あの喧騒さも去り、本来の厳しさ、美しさ、そして、落ち着きが戻り、キラキラ輝く頂は、崇高で気高い。人を拒めば拒むほど、私を引きつけて止まない、そんな宝剣岳の冬である。			
2	穂高・春山讃歌	①穂高連峰 ②穂高連峰 ③穂高連峰	今井勝徳
春山。里では草木が芽吹くころ、穂高はまだ一面の銀世界。ゴールデンウィークには、多くの登山者が集い、それぞれの春山を楽しむ。いいな～！ 山は、人生の清涼剤だ。			
3	山岳燦燦	①立山 ②槍・穂高連峰 ③槍ヶ岳	大石高志
太陽は、万物の創造の源として古くからあがめられてきた。また、神々が宿る神秘的なものとして、現在でも信仰の対象となっている。山岳における太陽は、それが作り出す陰影とともに、神秘的な山の姿を刻々と変化させて映し出している。この太陽と崇高な山の姿を対比させて表現した。			
4	劔岳秋景	①劔岳 ②劔岳 ③劔岳	大山恭司
秋の劔岳は日一日とその彩りを変える紅葉や、雲・初雪などで素晴らしい光景を演出してくれる。また、見る場所によってこれほど山容が変わる山もめずらしい。仙人池や池の平から眺める裏劔は、アルプス的な岩稜が屹立していてダイナミックな景観を呈している。			
5	立山の春	①立山 ②大日岳 ③地獄谷	佐々木康之
近年アクセスの発達に伴い容易に入山出来るようになり、立山を美しく表現したいと考え、足繁く通うようになった。この作品は一般ルートの開通する前の4月に入山し、豪雪に耐えた早春の立山を写し出したつもりであるが、未だ「立山の魅力」に程遠い気がしてならない。			
6	初冬の尾瀬ヶ原	①尾瀬ヶ原 ②尾瀬ヶ原 ③尾瀬ヶ原	中澄一之
尾瀬の撮影シーズンは、5月から10月までの半年である。その半年の間に残雪、雪解け、芽吹き、新緑、霧と花の夏。そして9月の声の聞こえとウルシの紅葉をスタートに草紅葉から10月中旬の紅葉のピークを迎えると、あっという間に冬へと、平地の一年間の季節が詰まっている。これは、そんなシーズン末の尾瀬ヶ原の表情である。			
7	風と陽の競演	①伊那前岳 ②木曾駒ヶ岳 ③伊那前岳	中山秀幸
雪に覆われた厳冬の稜線。シュカブラと舞い上がる雪煙に太陽が強いアクセントをつける。人を拒絶するようかのような厳しい世界に繰り広げられる美しい光景。			
8	秋・ブナの森	①天水山 ②天水山 ③鍋倉山	名取洋
新潟県と長野県の境に位置する関田山塊。標高1000m程度の低山であるが、ブナ林の美しい山として有名である。例年10月下旬には、全山が黄葉し美しく染まる。晴れてよし、時雨れてよし、またガスが湧いてよし。被写体には事欠かない山域である。			
9	秋・光彩	①志賀高原 ②乗鞍岳 ③乗鞍岳	細野弘
どこまでも続く山並みに光射す時、色彩は美しい輝きを増す。樹林は日毎に色づき、空気は透明度を増し、風も光も冴えわたる。朝の光に照らされたダケカンバの黄葉が燃える時、山の秋はまさに彩りの世界。			
10	一夕星宴	①穂高連峰 ②富士山 ③燕岳 (おおいぬ座) (獅子と金星) (オリオン座)	前田春好
日中、あれほど賑わっていたが、夜は私だけの世界。山と星座と語ろう。宴もたけなわの頃には金星が輝き始める。いつしか東の空が明るむ頃には、宴もお開きになる。			
11	雲と……	①燕岳 ②笠ヶ岳 ③槍ヶ岳	前羽光雄
果てしなくどこまでも続く大空、湧き上がる雲。山の天気は気まぐれで安定しない。被写体を求めて峰から峰へ。大自然の中で様々な表情を見せて、天地の鼓動を感じさせてくれる。時には、山の引立役にもなり、または、主役の座も奪ってしまうこともある。8月下旬ともなれば、雲にも秋の息吹が感じられる。			
12	冬の横岳	①横岳 ②横岳 ③横岳	宮坂直木
私が始めて登った山が八ヶ岳であった。主峰赤岳の頂上に立った時の感動は忘れることはできない。あれから50年近くの歳月が流れたことになる。何度となく登った赤岳。頂上から見た厳しい冬の横岳を3枚で表現した。			